■　HMG-CoA還元酵素阻害薬フォーミュラリー　■

	第1推奨	第2推奨		
薬剤名	**ロスバスタチン**	**アトルバスタチン**	**ピタバスタチン**	**プラバスタチン**
効能 効果	①高コレステロール血症 ②家族性高コレステロール血症			①高脂血症 ②家族性高コレステロール血症
規格	2.5mg 5mg(院外)	5mg(院外) 10mg	2mg	5mg(院外) 10mg
用量	①2.5mg～10mg ②2.5mg～20mg	①10mg～20mg ②10mg～40mg	1~4mg	10~20mg
特徴など	• 水溶性ストロングスタチン • シクロスポリン(ネオーラル・サンディミュン等）とは併用禁忌 • 急性肝炎、慢性肝炎の急性憎悪、肝硬変、肝癌、黄疸のある患者には禁忌 • CCr30mL/min未満では2.5mgより開始(最大5mg) • 妊婦又は妊娠している可能性のある女性及び授乳婦は禁忌(催奇形性)	• 脂溶性ストロングスタチン • 主にCYP3A4により代謝される。グレカプレビル・ピブレンタスビル(マヴィレット配合錠)とは併用禁忌 • 急性肝炎、慢性肝炎の急性憎悪、肝硬変、肝癌、黄疸のある患者には禁忌 • 妊婦又は妊娠している可能性のある女性及び授乳婦は禁忌(催奇形性)	• 脂溶性ストロングスタチン • シクロスポリン(ネオーラル・サンディミュン等）とは併用禁忌 • 重篤な肝障害又は胆道閉塞のある患者には禁忌 • 妊婦又は妊娠している可能性のある女性及び授乳婦は禁忌(催奇形性)	• 水溶性スタンダードスタチン • 妊婦又は妊娠している可能性のある女性及び授乳婦は禁忌(催奇形性)

薬品名		LDL-C低下作用比較					
ロスバスタチン	ストロング スタチン			2.5mg	5mg	10mg	20mg
アトルバスタチン				10mg	20mg	40mg	
ピタバスタチン			1mg	2mg	4mg		
プラバスタチン	スタンダード スタチン	10mg	20mg				
シンバスタチン (院外採用)		5mg	10mg	20mg			
フルバスタチン (院外採用)		20mg	40mg				

HMG-CoA還元酵素阻害薬

有効性・安全性

・日本では2023年4月時点で、ストロングスタチン3種類（アトルバスタチン、ピタバスタチン、ロスバスタチン）、スタンダードスタチン（プラバスタチン、シンバスタチン、フルバスタチン）が発売されている。
・日本動脈硬化学会「冠動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版」など国内のガイドラインにおいて、特定のスタチンは推奨されていない。
・日本循環器学会「急性冠症候群ガイドライン2018年改訂版」においては、日本のACS患者においては、早期から最大量のストロングスタチンが推奨されている。
・スタチン不耐診療指針作成ワーキンググループ「スタチン不耐に関する診療指針2018」においてスタチン間の有害事象発生率については記載されていない

推奨の理由

・有効性・安全性、各薬剤の特徴（上記）及び経済性を考慮し、第１推奨をロスバスタチン、第2推奨をアトルバスタチン、ピタバスタチン、プラバスタチンとした。